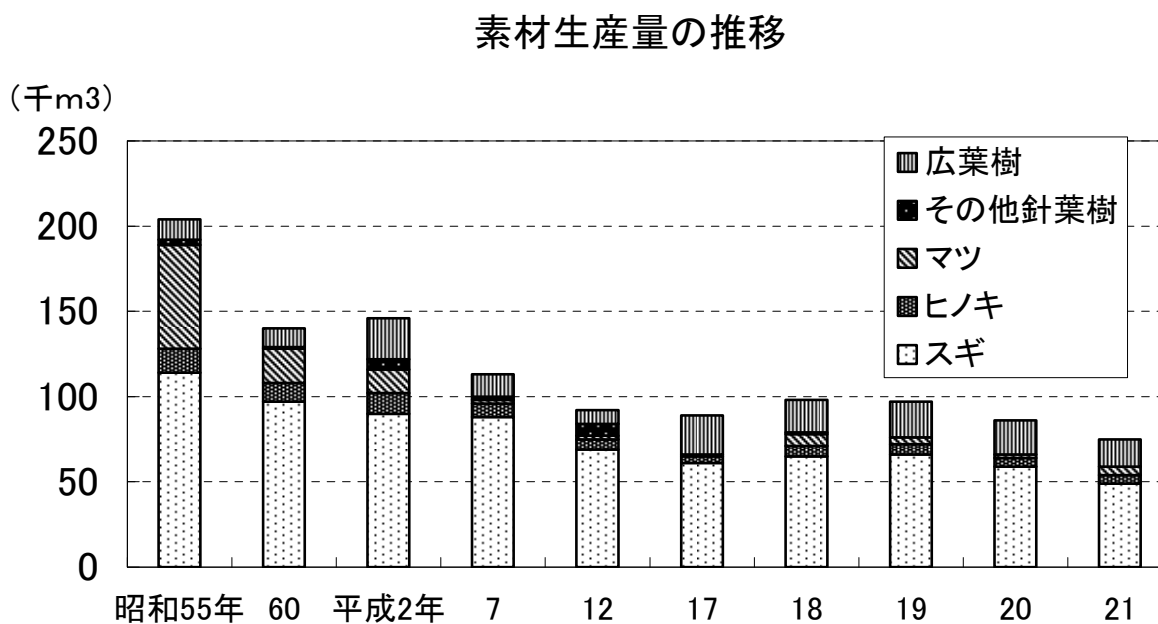
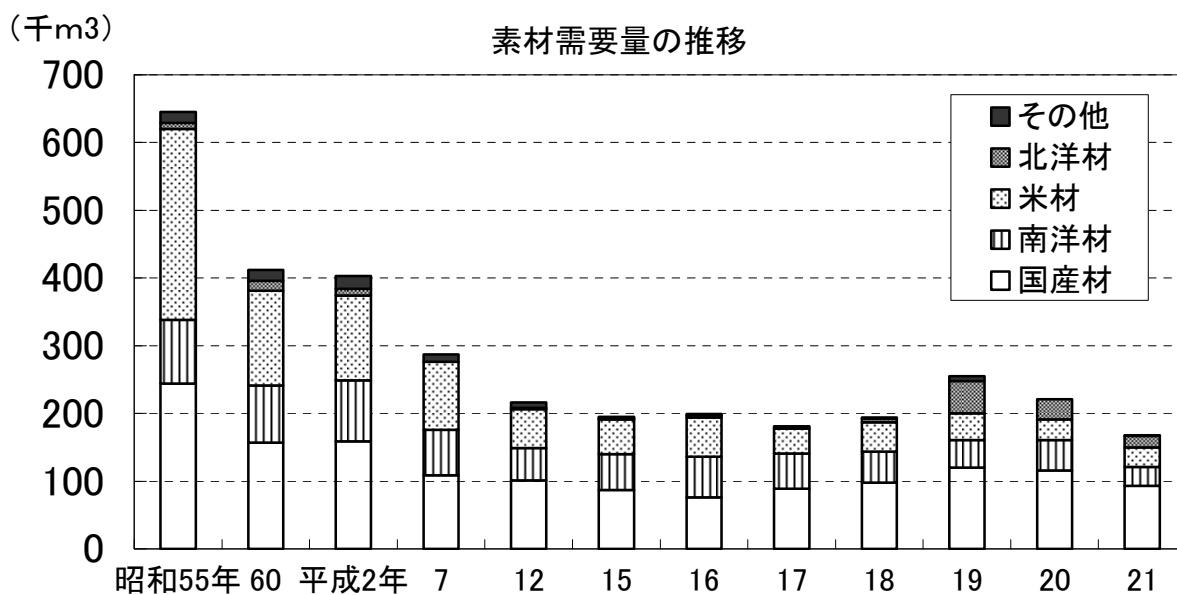


5. 林産物の需給

(1) 木材の需給



平成21年の素材需要量は前年より53千 m^3 減少し168千 m^3 であった。このうち国産材は93千 m^3 、輸入材は75千 m^3 であった。

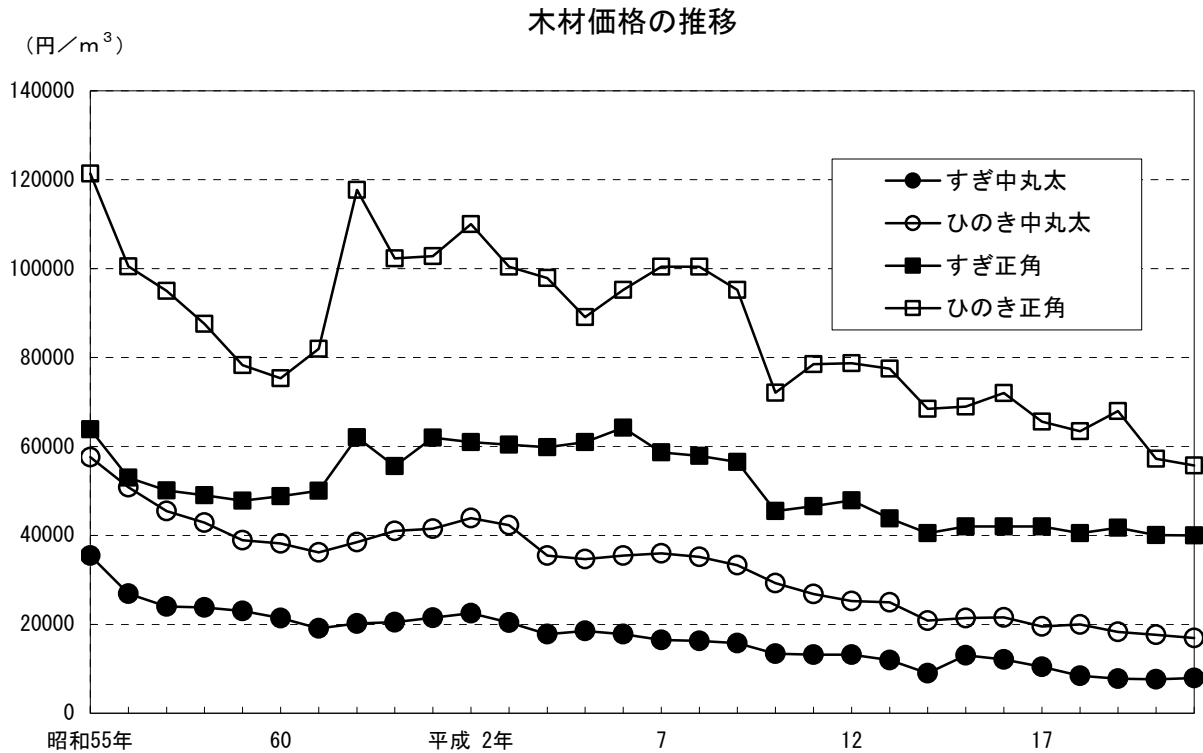
輸入材のうち、米材が39%、南洋材が37%、北洋材が23%である。

県内素材生産量は、前年より11千 m^3 減少し75千 m^3 で、樹種別ではスギ49千 m^3 、ヒノキ5千 m^3 、マツ5千 m^3 、広葉樹が16千 m^3 となっている。

県内の素材生産を所有形態別にみると、国有林、公有林とも前年同様の各2千 m^3 、私有林は前年より11千 m^3 減少し、71千 m^3 であった。

県内の製材工場への素材の入荷量は78千 m^3 、製材品生産量は46千 m^3 となっている。

(2) 木材価格



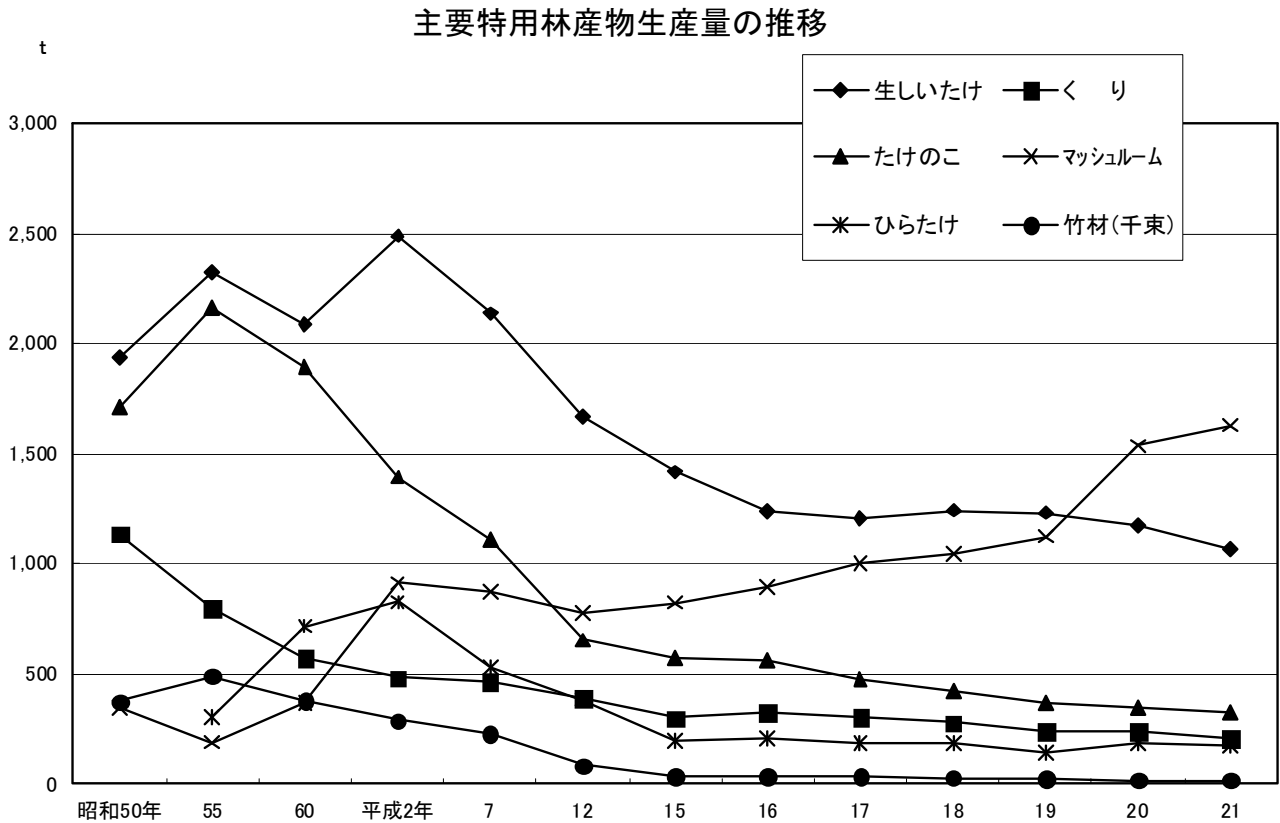
昭和55年をピークに低迷を続けていた木材価格は、昭和62年から平成2年にかけて好調な住宅建設に支えられて緩やかに上昇したものの、平成2年の後半から円高による外材の大量入荷が続き低下した。

平成3年以降も景気の後退により低下傾向が続き、平成7～8年にやや持ち直したものの、平成10年には再び下落、以降低迷している。

平成21年の素材の平均価格は、スギ中丸太が7,958円/m³で前年から291円上昇、ヒノキ中丸太が16,958円/m³で前年から709円下落している。

製材品は、スギ正角（10.5cm角、長さ3.0m）が40,000円/m³で前年から83円、ヒノキ正角（10.5cm角、長さ4.0m）が55,700円/m³で1,550円下落している。

(3) 特用林産物の需給



(注) 竹材生産量の単位は千束

本県の特用林産物は、シイタケ・マッシュルーム・ヒラタケ等のきのこ類を中心に、タケノコ・ワラビ・ゼンマイ等の山菜類、クリ等の樹実類、竹材等の竹類、シキミ・サカキ等の特用樹等と多種にわたっている。

生産量を作物別に見ると、生シイタケは前年比9%減の1,068t の生産となった。地域別では千葉が277t と最も多く、次いで夷隅・印旛・君津の順となっている。

マッシュルームは香取・海匝地域において、対前年比6%増の1,630t 生産されている。

ヒラタケは、対前年比4%減の179 t となっている。

タケノコは生産者の減少、獣害により前年比6%減の326 t の生産となった。地域別に見ると夷隅地域が最も多く207 t、次いで安房・長生の順となっている。特に、夷隅地方は早出しタケノコの産地として知られている。

樹実類ではクリが、対前年比13%減の209 t となった。

竹類は対前年比6%増の18千束となっている。